

横須賀市で確認された モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano, 1924)

金田正人*・神山奈由子*・
鈴木茂也**・天白牧夫*・
永嶋省吾**・宮脇佳郎**・村石健一*

Forest Green Tree Frog (*Rhacophorus arboreus*) recognized in Yokosuka City

KANEDA Masato*, KAMIYAMA Nayuko*,
SUZUKI Shigeya **, TEMPAKU Makio *,
NAGASHIMA Shogo**, MIYAWAKI Yoshio**
and MURAIISHI Kenichi**

キーワード：モリアオガエル, 横須賀市, 外来生物
Key words: *Rhacophorus arboreus*, Yokosuka City,
invasive species

はじめに

モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano, 1924) は、海岸近くの低地から標高 2,000m 以上の高地まで分布するが、一般には山地に多く、森林に生息する。繁殖期は 4～7 月で、池、沼、水田、湿地、用水池の近くで繁殖し、木の上に白い泡状の卵を産む(前田・松井, 1999)。

神奈川県内での確認地は、1996 年までは藤野町と鎌倉市だけだったが、それ以降に南足柄市、山北町、中井町、相模湖町など県西部で相次いで生息や繁殖が確認されている(高桑ほか, 2006)。県内のそれぞれの繁殖地が連続しないこと、産卵場所がプールや人家、寺社の池、農業灌漑用の水槽であることから、その分布は人為的なものとする考え方が強い(高桑ほか, 2006)。さらに、もっとも広い山地帯を占める丹沢地方からは、本種に関してまったく記録がないことから、神奈川県には本種が自然分布しない公算が強いとされる(環境庁, 1983)。一方、県南東部に位置する三浦半島では近年本種の記録はなかつ

た。筆者らは 2010～2015 年にかけて、横須賀市の複数箇所において日常の観察活動の中から、虹彩がオレンジ色で皮膚がざらついており鳴き声の音質が低いアオガエル属の個体を複数確認した。これらの特徴をもつものは、三浦半島に分布するシュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* (Günther, 1858) 及び、国内に生息するアオガエル属の中でモリアオガエルであると判断することができた(前田・松井, 1999)。一連の確認記録および採集の経緯について報告する。

観察地

本種を確認したのは、横須賀市太田和の水田(北緯 35.233331, 東経 139.647415)、湘南国際村を流れる尾形瀬川(北緯 35.252119, 東経 139.613382)、山中町(北緯 35.277152, 東経 139.637922)である。

太田和の水田は丘陵の緩やかな斜面を利用して作られた棚田で、4～5 枚の小さな規模である。その最上段と一段下の畦や周辺のアズマネザサ群落などで本種の生息を確認した。尾形瀬川は前田川の支流であり、子安緑地を水源とする沢である。周囲は二次林と湘南国際村の造成に伴って成立したアズマネザサ群落やマダケ群落および調整池となっている。山中町は水田耕作が 50 年ほど停止している谷戸であり、その大部分がアズマネザサ群落やコクサギ群落となっているが、一部に伏流水から生じた湿地環境がある。

上記の 3 地点では、ほかにヤマアカガエル *Rana ornativentris* (Werner, 1903)、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル *Hyla japonica* (Günther, 1859)、アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* (Boulenger, 1883) が生息する。なお、本報告の採集地に最も近い本種の確認地である鎌倉とは、直線距離で湘南国際村が約 11km、山中町が約 12km、太田和が約 15km 離れている。また、自然分布域である東京都西部や静岡県東部からは、それぞれ約 70km 離れている。

観察及び採集記録

太田和の水田(第 1 図)で最初に本種を確認した

* 三浦半島自然誌研究会 〒240-0113 三浦郡葉山町長柄1182-3

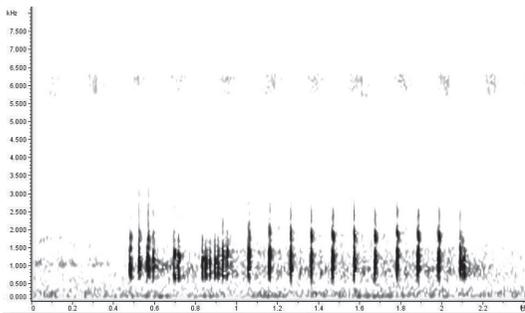
** 三浦半島渡り鳥連絡会 〒238-0114 三浦市初声町下宮田743

原稿受付2017年9月30日。横須賀市博物館業績 第731号



第1図. 太田和の水田.

のは2010年6月11日の夜間で、棚田の周囲の林縁部から♂2個体の声を確認し、一部録音した(第2図)。その際に姿は確認できなかった。翌2011年は6月8日に訪れたが声は確認できなかった。2012年は6月17日に♂3個体の声を確認、6月23日に再訪、畦で鳴く♂1個体を捕獲、撮影後リリースした。2013年には捕獲するため、5月26日に畦で本種の声を再生し、それに反応した♂3個体を採集した(第3図)。捕獲した3個体は水田に隣接する笹藪やヤブツバキの地上から2~3mの葉上にいるところを追い出して捕獲した。しかし、6月16日には別の個体の声が聞かれたが採集には至らなかった。2014年は、



第2図. 確認されたモリアオガエル求愛コールのソナグラム.

前年と同様に音声を再生して反応した個体を6月20日に♂3個体、6月22日に♂2個体を採集した。調査の一覧を表に示す(第1表)。2010~14年の5年間に成体♂9個体を採集したが、♀と卵塊は未確認である。このため、当地では最低9個体の♂だけが確認されていることから、繁殖はしていないものと考えられた。その後、2016年からは水田は休耕され、カエル類が繁殖する湿地環境はほぼ消失している。

湘南国際村では、2012年6月に調整池にてアカガエル類よりも目の間隔が離れ、ニホンアマガエルよりも尾の幅が広いアオガエル属とみられる幼生を目視したが、同定と採集には至らなかった。2014年7月7日の日中に尾形瀬川沿いのマダケ群落内にて、マダケの地上から約3mの葉上に♂1個体がいるところを採集した(第4図)。2015年6月27日他に再度訪れたが、目視および鳴き声等は確認されなかった。

山中町では、2016年6月2日にモリアオガエルの卵塊1個を休耕田を被覆する灌木の樹冠内で確認した。幼生については、休耕田内にシュレーゲルアオガエルと思われる個体も多数いたため、同定には至らなかった。2017年6月8日に同じ灌木に4卵塊を確認した(第5図)。採集して孵化まで経過観察し



第3図. 採集個体 太田和 2013年5月26日.

第1表. 横須賀市における近年のモリアオガエル確認状況.

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
横須賀市太田和	鳴き声		♂3確認 ♂1採集	♂3採集	♂5採集		生息地消失	
横須賀市湘南国際村			不明幼生		♂1採集			
横須賀市山中町							1卵塊	4卵塊

※記録のない年はいずれも繁殖期に訪れるも生息確認に至らなかった。



第4図. 採集個体 湘南国際村 2014年7月7日.



第5図. 卵塊 山中町 2017年6月8日.

たところ、2卵塊で孵化までを確認し、幼生は変態前に処分した。

考 察

三浦半島の両生類相は、比較的早い時期から一部の地区での詳細なモニタリング調査と、有志グループらによる悉皆調査が行われている(柴田, 1973; 藤沢, 2011)。今回、新たな分布情報が近年に現れたとすると、それはこれまでの県下での観察情報と同様に人為分布である可能性がきわめて濃厚とな

る。生物の生息域外への持ち込みは食物網の攪乱につながり、自然分布域内での同種の持ち込みはさらに地域固有の遺伝子の汚染にもつながるなど、大いに懸念されるものである(鷺谷, 1999)。

横須賀市太田和の水田では、複数年にわたって多数の成体が確認され、最も目立った確認地となった。しかし、現状では採集されたのが全てオスであること、卵塊が確認されていないことなどから、オスのみが放逐されるなどして繁殖のできないグループである可能性もある。また、当該地区はその後水田から畑に転用されており、多くの両生類が失われたものの今後本種がここを拠点として個体数を増やす可能性は低いと考えられる。

湘南国際村には本種の繁殖に適した止水域は調整池のみで付近に本種の生息適地がないことから、仮に本種が湘南国際村で繁殖したとしても自然に分布を拡大することは難しいと考えられる。

横須賀市山中町ではこれまで鳴き声も含め記録がなかったが、2016年に初めて卵塊が確認された。二子山山塊の一角であり周囲は休耕田のある谷戸が複数続いていることから、ここを中心に分布を拡大する可能性があり、今後注視していきたい。

引用文献

- 藤沢浩子 2011. 自然保護分野の市民活動の研究. 262 ページ. 芙蓉書房出版.
- 環境庁 1983. 日本の重要な両生類・は虫類の分布. 263 ページ. 大蔵省印刷局.
- 前田憲男・松井正文 1999. 日本カエル図鑑. 223 ページ. 文一総合出版.
- 柴田敏隆 1973. 三浦半島の両生類. 横須賀市博研報. (自然), (20): 11-17.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 ページ. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 鷺谷いづみ 1999. 生物保全の生態学. 181 ページ. 共立出版株式会社.

